

News release

スイス・リーのシグマ調査－2014年の自然災害による保険損害額は、史上最多の発生を記録したにもかかわらず平均を下回る

- 2014年の自然災害および人災による世界の経済的損害額は約1,100億米ドル
- それに比して2014年の世界の保険損害額は約350億米ドルで、過去10年間の平均である640億米ドルを下回った
- 2014年にはシグマ調査開始以来最多の189件の自然災害が発生
- 2014年の自然災害および人災による犠牲者数は12,700名で、年間犠牲者数としては過去最低
- 激しい雷雨による損害が増加傾向にある－シグマ調査の特集記事を参照

チューリッヒ、2015年3月25日－スイス・リー・グループ(以下、スイス・リー)の最新のシグマ調査によると、2014年の自然災害および人災による世界の保険損害額は350億米ドルとなり、2013年の440億米ドルから減少、さらに過去10年間の平均である640億米ドルを大幅に下回りました。2014年に発生した自然災害はシグマ調査の開始以来最多の189件で、世界の経済的損害額は1,100億米ドルにのぼりました。自然災害および人災によって失われた人命は約12,700名で、2013年の27,000名から減少し、年間犠牲者数としては過去最低でした。

2014年の自然災害および人災による経済的損害総額は1,100億米ドルで、2013年の1,380億米ドルから減少しました。これは直近10年の年間平均損害額である2,000億米ドルを大きく下回っています。経済的損害総額のうち自然災害による損害は1,010億米ドルで、なかでも最も深刻な被害をもたらしたのはアジア太平洋地域のサイクロンでした。2014年の世界の保険損害額350億米ドルのうち自然災害による損害は280億米ドルでした。

米国、欧州、日本での気象関連の災害が最も多額の保険損害額を計上

スイス・リーのチーフ・エコノミストであるカート・カールは次のように述べています。「昨年史上最多を記録した自然災害の発生件数を見ると、自然災害の発生頻度は増加傾向にあるようです」。昨年米国および欧州で著しい損害をもたらした一連の激しい雷雨からもその傾向がうかがえます。米国で5月にひょうを伴う嵐が続き、2014年で最も高額となる29億米ドルの保険損害をもたらしました。翌6月には欧州で低気圧「エラ」が通過し、フランスおよびベルギーの一部地域では大粒のひょう、ドイツでは強風による被害が発生しました。低気圧「エラ」による保険損害総額は22億米ドルにのぼり、シグマ調査開始以来欧州において2番目に高額な損害をもたらした災害となりました。

Media Relations, Zurich
Telephone +41 43 285 7171

Lucia Bevere, Zurich
Telephone +41 43 285 8306

Thomas Holzheu, Armonk
Telephone +1 914 828 6502

Clarence Wong, Hong Kong
Telephone +852 2582 5644

Swiss Re Ltd
Mythenquai 50/60
P.O.Box
CH-8022 Zurich

Telephone +41 43 285 2121
Fax +41 43 285 2999

www.swissre.com
 @SwissRe

米国および日本での厳しい冬もまた2014年の保険損害に大きく影響しました。米国では豪雪を伴う複数の嵐および長期間にわたる氷点下の寒波が発生しました。米国の全ての冬の嵐による保険損害額は24億米ドルにのぼり、過去10年間の平均の2倍以上となりました。最も大きな損害をもたらしたのは、1月に米17州を襲った嵐で、南はフロリダにまで雪を降らせ、保険損害総額は17億米ドルにのぼりました。一方日本では、2月中旬に発生した寒波により数10年ぶりの大雪を記録し、主に交通事故により26名が死亡、多くの負傷者がでました。この寒波による保険総額は25億米ドルと推定されています。

米国に大きなハリケーンが上陸しなくなってから連続9年目となり、2014年は北大西洋では、またも比較的穏やかなハリケーンシーズンとなりました。保険損害総額が平均を下回ったのは、これが主な理由となっています。その一方、東太平洋では1992年以降最多となる20件の大型の嵐が発生しました。その中でも9月にメキシコのバハ・カリフォルニアを直撃したハリケーン「オディール」が最も高額な損害をもたらしました。この地域はホテルや商業施設が多く、保険の普及率が比較的高い観光地です。このため保険損害額は17億米ドルとなり、2005年に21億米ドルの保険損害をもたらしたハリケーン「ウィルマ」に次いで、メキシコで2番目に高額な損害をもたらした災害となりました。

保障ギャップは依然として課題

一方で、保険の補償不足は多くの国で依然として課題となっています。たとえば、5月に発生した低気圧「イベット」はセルビア、ボスニア、クロアチアに激しい降雨をもたらし、一部の地域では120年ぶりの豪雨となりました。複数のダムが決壊したことで洪水と土石流が発生し、家屋、インフラを倒壊、農作物に打撃を与えました。犠牲者数は2014年に欧州で発生した自然災害で最多の82名となりました。経済的損害額は30億米ドルと推定されていますが、その大半は無保険でした。イタリアも非常に雨の多い1年となり、複数の洪水が発生したため経済的損害額は10億米ドル以上となりましたが、この損害の大部分もまた無保険でした。

米国にも保障ギャップのある領域が存在します。2014年8月に発生したサウスナパ地震では、建物や在庫、とりわけ多くの地域のワイン産業の酒蔵が被害を受け、7億米ドルの損害が生じました。しかし保険損害額はわずか1億6,000万米ドルのみでした。スイス・リーのシニア・エコノミストであるルチア・ベヴェーレは次のように述べています。「地震リスクが極めて高いにもかかわらず、サンフランシスコ群およびカリフォルニア州の保険普及率は企業財物でさえ未だ非常に低い状況です。これが一部地域において災害が発生した際に保険損害額が驚くほどに低い理由なのです。」

激しい対流性暴風雨による損害が増加

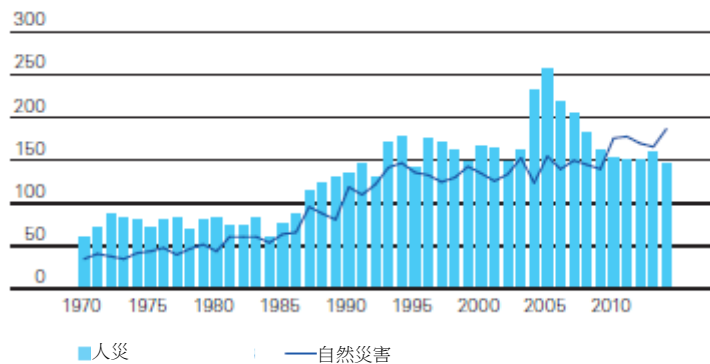
本シグマ調査では、激しい対流性暴風雨とも呼ばれる、激しい雷雨について特集しました¹。過去25年間、激しい対流性暴風雨による被害および損害額は増加傾向にあります。これは主に、雷雨(特に竜巻)の発生頻度および保険普及率が最も高い米国や、ひょうを伴う嵐や洪水が頻繁に発生する欧州にお

¹ 激しい対流性暴風雨には、竜巻、ひょう、雷、豪雨、洪水が含まれます。一般的に嵐は被害が出ると予想されている場所の閾値に基づいて「重度」が分類されており、通常は時速90キロメートル/26マイルの風、または直径2センチメートル/1インチのひょうが基準となっています。

いて損害額が増加していることに起因しています。

激しい対流性暴風雨による世界の保険損害額は、1990年から2014年の間に、年間平均で9%増加しています²。同期間において気象関連のすべての災害による保険損害額の増加率は年間平均で6.6%です。米国を単独で見た場合、1990年から2014年の激しい対流性暴風雨による保険損害額の年間平均は80億米ドルです。ただし2008年以降の保険損害額は毎年100億米ドルを超え、2014年にはシグマ調査開始以来4番目に高額の130億米ドルとなりました。

図表 1: 1970年～2014年の災害件数



出典: スイス再保険会社経済調査・コンサルティング・CAT ペリル部

表 1: 2014年と2013年の経済的損害額および保険損害額の総額

10億米ドル(2014年の物価水準)

	2014年	2013年	変化率	10年平均
経済的損害総額				
自然災害	101	129	-21%	188
人災	9	9	-2%	12
保険損害				
自然災害	35	44	-22%	64
人災	28	37	-24%	57
	7	8	-11%	6

出典: スイス再保険会社経済調査・コンサルティング・CAT ペリル部

² 短期的な変動を均し、長期トレンドに焦点を置くため、年間増加率は1980年～1990年と2010年～2014年の年間平均に基づいて算出されています。

月	保険損害 ¹	損害総額	事象	国
5月	2.9	3.7	雷雨、ひょう ²	米国
2月	2.5	5.0	大雪 ³	日本
6月	2.2	3.1	暴風雨エラ ⁴	フランス、ドイツ、ベルギー
9月	1.7	3.3	ハリケーンオディール ⁵	メキシコ
1月	1.7	2.5	冬の嵐 ²	米国
6月	1.3	1.7	雷雨、竜巻 ²	米国
4月	1.2	1.9	雷雨、竜巻 ²	米国
4月	1.1	1.6	雷雨、竜巻 ²	米国

注:(1) 財物および事業中断の損害(生命および賠償責任損害を除く)

出典:(2) 米国自然災害概算 プロパティ・クレーム・サービス認可取得済み (3) 日本損害保険協会およびスイス・リーCAT ペリル部による概算 (4) 保険協会およびスイス・リーCAT ペリル部による概算 (5) メキシコ保険協会およびスイス・リーCAT ペリル部による概算

表 3: 2014 年の保険損額および被災者数のシグマ調査の単位

保険損害額 (100 万米ドル)		
船舶		19.6
航空		39.3
その他損害		48.8
経済的損害額(単位: 100 万米ドル)		97.6
被災者数		
死亡または行方不明者		20
負傷者		50
家を失った人		2000

出典: スイス再保険会社経済調査・コンサルティング・CAT ペリル部

スイス・リーについて

スイス・リー・グループは、再保険、保険、その他保険ベースのリスク移転で世界をリードする大手再保険会社です。直接、またはブローカーを通して、世界中の保険会社、中規模企業から大企業、公共部門のお客様にサービスを提供しています。あらゆる保険種目の標準商品からテイラーメイドの商品までを携え、スイス・リーは、その資本基盤と、事業や発展に付随するリスクを負うことを可能にするための専門知識と革新力を展開しています。1863年にスイスのチューリッヒで創業されたスイス・リーは、世界約70カ所で事業拠点を展開しています。スタンダード&プアーズから「AA-」、ムーディーズから「Aa3」、A.M. Bestから「A+」の格付けを取得しています。スイス・リー・グループの持株会社である Swiss Re Ltd の登録株式は、スイス証券取引所のメインスタンダードに準拠して上場しており、ティッカーシンボル SREN で取引されています。スイス・リー・グループに関する詳細は、ウェブサイト (www.swissre.com) をご覧いただくか、または Twitter で (@SwissRe) をフォローしていただきますようお願いいたします。